



博
学
多
才

五
高
立
役
武
多

は
る
に
れ

題字 小野蒼州



「不易流行」

校長 大瀬 幸治

「不易流行」という言葉は教育現場ではよく使われ、私の座右の銘でもあります。俳聖松尾芭蕉が「奥の細道」の旅の中で体得した概念と言われており、弟子の去来などが書いた書物の中に、芭蕉の言葉として次のように残されています。

「蕉門に千歳不易の句、一時流行の句と云う有り。これを二つに分かつて数えたまえども、その基は一つなり。不易を知らざれば基立ちがたく、流行をわきまへざれば風新たならず」

「不易」はいくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないもの、「流行」は世の中の変化に合わせて変えていくものという意味で、「不易の真理を知らなければ基礎は確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない。両者の根本は一つである」と解釈できます。これを学校教育に置き換えると、創立の精神が「不易」であり、その精神を時代の変化や生徒の変化を見据えて行っていく学校経営を「流行」と考えます。そして、学校経営は創立の精神か

らかけ離れたものであってはならず、時代背景や世の中の変化の中で創立の精神そのものを豊かに膨らませていくことが大切であるということを教えてくれています。

114年目を迎える五所川原高校の歴史の中で脈々と受け継がれてきた校訓「敬愛 叡智 進取」と教育標語「力行天下第一」を柱とした「不易」の教育、そして地域に軸足を置きながらグローバルな視野をもって社会状況に対応してきた「流行」の教育、これらの根本は、「生徒の幸福な未来」という思いに他なりません。これからの「不易流行」を大切にしながら、生徒にとって充実した教育を提供できるように教職員一丸となって取り組んで参ります。

アフターコロナへの転換に伴い、学校生活もコロナ以前の活動を取り戻しつつあります。コロナ禍で学んだ知見を活かしながら、校歌の斉唱をはじめ、学校行事、部活動など活発に行われるようになりました。笑顔あふれる生徒同士の語らいや汗だ

くになって部活動に向かう姿など、本来の「密な青春」が少しずつ垣間見ることができるようになりました。特に今年度は、生徒の主體的な活動が顕著に見られ、奥津軽虫と火まつり親善大使の活動や立佞武多祭参加等の地域貢献活動をはじめ、「地域で一番の文化祭」を掲げて、五高インスタグラムを開設や趣向を凝らした催し物を披露して本校の魅力を積極的に発信してくれました。仲間のため、学校のため、地域のために一生懸命に取り組んでいる生徒の姿を本当に誇らしく思います。

保護者の皆様には日頃より本校への温かいご理解をいただき、また委員会部会、学年部会をはじめとする多くのPTA活動にご尽力いただいております。深く感謝申し上げます。これからも地域に必要とされる学校として、保護者や地域の皆様のご協力のもと精一杯教育活動を進めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。



あいさつ運動





「人生は敗者復活戦」

PTA会長 高橋 尚 裕

はじめまして。今年度PTA会長を務めさせていただいております。高橋尚裕と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず初めに、大瀬校長先生をはじめとする教職員の皆様には思春期の難しい時期の子供たちをご指導いただいていることに心より感謝申し上げます。また保護者の皆様におかれましても日頃からPTA活動へのご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、今年5月にコロナウイルスも第5類に指定され、今年度は立佞武多参加、五高祭、修学旅行といった行事を、ほぼコロナ以前の規模で実施できたことは非常に喜ばしいことであります。しかしながら、活動に制限のかかっていた3年生や、昨年、一昨年の卒業生が思うように参加できなかったことは心に残ります。

今年7月に行われました、高校PTA連合会全国大会にて、仙台育英高校野球部の須江監督の講演を聴く機会を頂きました。

「人生は敗者復活戦」須江監督の座右の銘であります。この言葉には、勝利の偶然性と、敗北から学び、改善点を見つけないで成長する可能性が含まれています。コロナの制約下で苦しんだ子供たちは、その苦しみを乗り越え、確実に成長することでしょう。今後の彼らの活躍を期待しております。

最後に、PTA活動に参加することに抵抗を感じる保護者の方もいらっしゃるかもしれません。子供のために自分の時間を割くボランティア活動ですが、立佞武多の手伝いや五高祭の観覧を通じて、子供たちが無邪気に笑ったり、じゃれあったりする、普段、自宅では見せない姿を近くで見ることが出来ます。また、PTA活動に参加することで先生方との距離が縮まり子供の相談がしやすくなったり、時には須江監督のような素晴らしい方の講演を聴けることもあります。是非とも、保護者の皆様には、PTA活動への積極的なご協力をお願いします。挨拶とさせていただきます。

PTA研修旅行記

10月26日(木)にPTA校外研修会が行われました。4年ぶりの研修でしたが、17名の方に参加いただきました。

秋田県小坂町の康楽館で「下町かき組」を観劇した後、明治38年に建設された重要文化財「小坂鉱山事務所」内のレストランで食事をし、木々に囲まれた周辺を散策しました。

帰りの道の駅では、日本古来の在来種である山ぶどう系品種にこだわったワイン造

りをしている小坂七ツ滝ワイナリーを見学し、試飲を楽しんだ保護者もいたようです。キレのある俳優陣の踊り、笑いあり涙ありの大衆演劇、間に差し込む「康楽館まんじゅう」のコミーシャル。ショー終了後には、無意識のうちに売店に並んで購入してしまう単純接触効果(別名サイオンス効果)も身をもって体験しました。また、周辺の山々が色づき、秋の訪れを実感しながら散策を楽しんだことで、心身のリフレッシュもでき、充実した一日を過ごすことができました。



委員会部会

健全育成委員会



健全育成委員長

安田 昌孝

健全育成委員長三年目の安田です。

今年五月からの新型コロナウイルス感染症の五類下げに伴い、学校行事等はじめPTA活動も、コロナ禍以前の状況に戻りつつあるようです。

通常コースに戻った五所川原市立佐武多運行に本校も参加し、各学年の生徒、保護者と学校関係者の協力のもと、威勢よく市内を練り歩くことができたことは、貴重な体験をするともに、感慨深く喜ばしい出来事でありました。また、春の挨拶運動も多くの委員・会員の皆さまにご参加いただき行われており、十月にも計画どおり実施いたします。

子供たちにとって、一日一日が貴重な時間と想い出の高校生活の三年間となるように、その環境づくりを先生方と共に作るために活動を続けますので、これからもご協力よろしく願います。



研修委員長

奈良 真弓

研修委員会

今年度の各委員長はこちらの方々です。各委員会の活動を紹介していただきました。

今年3月、来年度の研修委員長は、地区と県の委員長を兼務：打診を頂き、夫婦会議では、もちろん丁寧にお断りしようと決めたはずが、今ではすっかり新しい出会いや、県内あちこちの役員さん達との研修会・勉強会をする機会をいただき、本当に恵まれたと感じています。

6月には、高P連五所川原大会も盛大に行われ、御協力下さった各高校関係者の皆さん、お仕事の都合を付けて下さり準備に力を貸してくれたPTAのおひとりおひとりにも心から感謝しております。そして、私達PTAを支え、考え走り回ってくれている五所川原高校渉外部の先生方の努力に対して、お礼の言葉を言わせて下さい。

研修委員長をして、いつも思う事は、人とのつながりがとても大切だということです。その事を考える時、自ら頭を下げる事も私自身逆に楽しめるというのが唯一のモットーかもしれません。今月にはPTA校外研修で、参加者の皆さんと少し遠出の機会がありました。今後のPTA活動を、さらに楽しく、皆さんが遠慮なく色々な機会に触れられるよう、私も声がけしていく努力を、息子の卒業までがんばりたいと思います。(協力してくれる家族にも感謝!!)



広報委員長

横山 有紀

広報委員会

今年度広報委員長を務めさせていただきまず横山と申します。広報委員会は年二回広報紙「はるにれ」の編集・発行を行っています。PTA広報紙の役割、それは学校での行事や活動を介することが一番大きいと思います。生徒たちの学校での姿を家庭に、活動に参加する保護者の姿を子ども達に。お互いの知らない姿を見ることができる数少ない機会です。また、生徒と保護者に共通の関心ごととなり得るような特集を発信すること大切だと思っています。学校生活や受験・進学、趣味・興味など、色々な話題を生徒、先生、保護者という三者三様の視点で発信できるのは、学校広報紙ならではのようです。

娘が入学した時に、知り合いの先生から誘われて入った広報委員会。他の委員会より少ない人数で活動中です。学校と家庭をつなぐ役割の一端を担う広報紙と一緒に作ってくださる方大歓迎です。広報委員会に入らなくても、こんな特集を組んでほしい、どんな記事が読みたいといったご要望も大歓迎です。「読んで良かった」と思っていただけ「はるにれ」を目指して頑張りますので、ご意見ご協力をよろしく願います。

PTA・同窓生立佐武多



各学年部会



一学年部会

部会長 野崎 厳

厳

新時代

表題は昨年大ヒットしたA doさんの歌と同じ文言を使わせて頂きました。コロナ明けといわれている現在は今までと異なり正に新時代と言ってもいいのではないかと思います。一ドル150円を超え日経平均株価は30000円を上回るとはコロナ前では予想がつかなかったと思います。そして世界では大規模な戦争や紛争が起きています。前置きが長くなりました。一学年の部会長を務めさせて頂いております野崎厳と申します。

私も五所川原高校の卒業生であり今年長男が入学したこともあり二十数年ぶりに門をくぐりました。伝統的な校舎は昔と大きく変わってはおりますが懐かしさを覚えました。さて、冒頭でも申し上げましたが今時代は大きな変化を迎え新時代へ突入しています。生徒たちはこの大きな変革の中で高校生活を送らなければなりません。18歳になると成人を迎え社会的責任も出てきます。一学年部会会としてはその基礎作りのお手伝いを先生方



PTA総会



学年PTA



その事象が起きたのかを今後高校生活ないし大学生活の中で、過去に遡り、将来を予測できるよう勉強すれば大変素晴らしいと思います。その勉強も他の誰かのためではなく、自分の人生をよりよく楽しく過ごすために試みて下さい。

2年生の皆さんにおかれましては、高校生活も半分を過ぎ、次の進路の選択の時期がせまってきますが、緊張しつつも楽しみながら一歩一歩進んでもらいたいと思います。一方で、その後の大学生活や成人へ近づくにつれ世の中の仕組に疑問を感じる人が多いのではないのでしょうか。例えば、選挙権は何のために誰に投票すべきなのか、なぜ飲酒は二十歳からなのか、なぜ日本の人口は減り続けるのか、なぜ世界では戦争紛争が絶えないのか、なぜ隣国はミサイルを撃つのか、などなど。おかしいと疑問を感じる人が多いと思いますが、その疑問を感じることがまず大事です。そして、なぜ



二学年部会

部会長 村上 靖徳

と協力して行っていきたいと思っています。今の高校一年生はコロナが世に出始めた時に小学校6年生だった世代です。今までの学生生活では何かと制限があった世代になりますので高校生活では制限なく過ごしたい段階です。そのためには保護者の皆様の力が不可欠です。そのために協力をお願い致します。



三学年部会

部会長 前田 輝美

以上とりとめのない内容でしたが、私の好きな言葉をこの場を借りて紹介します。『自分の人生は自分が主役』、『泣きながらパンを食った者でなければ人生の味はわからない』、『Today is the first day of the rest of your life』。今令和の時代を生きるみなさんに栄冠が輝きますように。

三学年の部会長を務めさせて頂いたことになりました。前田輝美と申します。役員の方々、保護者の方々、そして先生方のお力を借りながら、一年間どうぞよろしくお願い致します。

さて、昨年度までコロナ禍の影響での生活を強いられていましたが、今年の五月八日から、コロナ前の日常へ戻りつつありました。高校総体では、一人一人の最後の力を発揮し、たくさんの方々の成績結果が残りました。一般公開となった「五高祭」は期待に胸を膨らませて、はじめて参加しました。生徒達の参画意識が光り輝いていました。「五高スポーツフェスティバル」に二日間、クラスのために仲間と協力して思いっきり戦ったことと思います。二立役武多は、運行距離が戻り力強い三年生のお囃子は、どの学年よりも立派でした。また、生徒達と一緒に仲間の遺影写真も参加して、友情の深さを改めて実感いたしました。地域貢献活動に取り組み、祭りを大いに盛り上げました。そして、最後の遠足は、夜越山オートキャンプ場で、準備を重ねて企画を実行し、楽しいひと時を過ごせたと思います。

さあ気持ちの切り替えです。これからは、自分の目標との戦いになります。仲間と切磋琢磨しながら研鑽を積み重ねていってほしいと思います。学校と家庭で生徒一人一人に進路実現のため、サポートしていきましょう。



（全国高等学校PTA連合会）

仙台大会

全国大会へ参加して

PTA会長 高橋 尚裕

仙台でのPTA全国大会に参加し、多くの新しい経験を積み、有意義なひとときを過ごしました。初日の午前には東北大学を視察し、その歴史と先進性に深い感銘を受けました。この大学が日本で初めて女性を受け入れたことに驚き、改めて東北大学の偉大さを感じました。受験生にとっても、大学の雰囲気を実際に感じるオープンキャンパスへの参加が非常に重要であることを再確認しました。

初日の午後には「地域教育」の分科会に参加しました。最近話題となっているブラック校則などで、子どもたちが提案した改善策を受け入れない学校や地域では、若者がそこに留まりたくないという気持ちになりやすい。声を上げることで自分たちの環境や地域を変えられるという意識を持たせることの重要性に気付かされ、私も若者の提案を尊重する大人でありたいと感じました。

2日目には仙台育英高校野球部の須江監督の記念講演を聴きました。彼の言葉からは多くの教訓を得ました。「人生は敗者復活戦」「賛同の多いことは時代遅れ」「短所がある程度改善しないと長所を飲み込んでしまう」「相手が聞きたいことでないとは伝わらない」「成功はアートであり、失敗を許容し挑戦することが大事」といった感動的な言葉に触れ、新たな視点を獲得しました。

この大会から得た知識や洞察を、今後のPTA活動に生かしていく決意を新たにしました。今年のPTA全国大会は素晴らしい経験であり、参加させていただき、心より感謝申し上げます。



（東北地区高等学校PTA連合会）

福島大会

東北大会に参加して

渉外部部長 川口 智

7月6日(木)・7日(金)にパルセイロいざか(福島市飯坂温泉観光会館)で開催された標記大会にPTA会長の高橋尚裕さんと参加してきました。

高校生のアトラクションや講演も面白かったですが、東北各県連代表による研究協議が一番興味深かったです。研究協議テーマは「子どもたちへのエール、私たちにできることは」でした。発表校は青森県立名久井農業高等学校、岩手県立花巻農業高等学校、宮城県立気仙沼向洋高等学校、秋田県立大館桂桜高等学校、山形県立米沢商業高等学校、福島県立会津高等学校の6校でした。バラエティに富む校種の発表でしたが通底するテーマは少子化だと思いました。本校もそうですが東北各県の学校は軒並み生徒数の減少に悩んでいます。特に郡部は都市部に比較して給与の高い仕事が少ない所得水準が低いという結婚が難しい。給与の高い仕事を求めて都市部に若者が流出する。結果として子どもが生まれにくいというスパイラルに陥っています。そんな中でもPTA活動を通して高校生に今後人生を歩んでいく上でどんなエールを送れるかを各校が試行錯誤しながら実践していることを理解できました。

今後も増税や国民負担率を上げるなどの少子化政策は続く模様なので残念ながら地域の衰退は避けられそうにありませんが、存続する限り学校は生徒のために努力を続けていかなければならないと思いました。



高P連西北研修会



青森県高等学校 PTA連合会

五所川原大会

高P連五所川原大会の裏側で

広報委員 成田 枝里

6月9日に行われた青森県高等学校PTA連合五所川原大会。今年度は五所川原市が開催地のため、前日の6月8日に会場となるオルテンシアにて、西北地区の各高校のPTA理事が集まって設営を行いました。

五所川原高校は舞台設営と広報紙コンクールの受賞校の発表と応募紙の掲示コーナーの作成を担当。机や椅子を運ぶ必要がある力仕事の舞台設営は男性陣にお任せし、我々女性陣は広報紙コンクールの結果掲示の準備をすることになりました。

掲示用の題字プリント等の下準備は事前に先生がしてくださったため、それらが必要に応じてカット、形成して準備された掲示板とテーブルに配置するのですが、ただ広報紙を置くだけでは素通りされてしまう。目に留まりやすい掲示をするために、受賞校の各広報紙をどう掲示するか、係で話し合っては試行錯誤を繰り返し……最終的に、掲示スペースが十分に確保されており、最優秀受賞校が五所川原農林高校でオルテンシアから近く、同校の先生も会場の設営に来ていたため、急遽広報紙の予備を学校から持ってきて頂き、冊子とは別に、見開き全面を一度に見られるように広報紙を解体して貼り出しました。また、最優秀賞、優秀賞を受賞した3校の広報紙は目線と同じ高さになるよう掲示板に貼り、以下優良賞、奨励賞、努力賞の各紙は各テーブルごとに配置し、手に取りやすいようにポップの位置や導線を工夫しました。

二時間ほどかかって、掲示スペースを完成させてこの日の設営作業は終了。苦勞の甲斐あって、翌日沢山の方にこの一角の掲示を熱心に見てくれている様子を見て、前日の苦勞が報われたなと嬉しくなりました。毎年青森県高P連の大会が各地で行われている影で、地元の方たちはこんな思いで毎年準備をされているのかなと思いを馳せました。



県高P連五所川原大会に参加して

広報委員 村上 伸江

まずは、大会歓迎セレモニーとして、生徒による三味線や吹奏楽を披露してくれ、聴衆の心を和ませてくれました。

次の記念講演では、舞の海さんの楽しいお話に、会場からは終始笑いが起きていました。

“技のデパート”と代名詞がつくほどの数々の技で活躍され、私たちを楽しませてくれた影では、“決して諦めない。”という彼の姿勢が不可能を可能にし、周りを納得させ、応援させる存在となっていました。

最後の研究協議では、各校とも三年間のコロナ禍の中で、“制限により断念する。”だけではなく、“まずはやってみよう”のスタンスで、出来ることを模索してのPTA活動を発表して下さいました。

更に大間高校では、地域校という新たな課題の中で、生徒の全国募集を導入することになりました。地域の特性を生かしたさらなるPTA活動の充実を図り、魅力を発信されていくとのことでした。

“子どもたちのためにPTAとして何が出来るのか”は時代により変化していきますが、その度に出てくることを見つけて活動していけることを願います。





アクティブ五高生!



入学式



桜の下でクラス写真(3年)



壮行式



芸術鑑賞



五高スポーツフェスティバル



部活動紹介



吹奏楽定期演奏会



遠足



アッ。作戦



近年、少子化の影響で本校志願者数が定員を下回る状況が続いています。また近隣の中学生が「勉強ばかりしている学校」というイメージを抱いていることも分かり、これも志願者数の減少に拍車をかけていることが中学校訪問で分かりました。

しかし、五高は勉強している時間は長いが部活動も他校に負けない積極的な取り組みがなされ、さらには立役武多に参加するなど地域貢献にも一役買っています。「勉強ばかり」というイメージを変えたいと今年度立ち上がったのが生徒会です。前生徒会長の31HRの長内由佳さんに生徒会の取り組みについて聞きました。



Q 今年度は、五高のイメージを変えるため、どんなことをしましたか？

A はじめて「虫送り親善大使」として小学校に出向き、一緒に松明作りをして交流を深めました。他にもラジオでの宣伝活動等をして、地域の祭の活性化に貢献しました。

Q 地域からは、どんな反応がありましたか？

A 「五高生がこんなボランティア活動に参加するなんて意外。これからもこのような活動に参加し、地域を盛り上げて欲しい。」という反応を市長からいただき、これからも頑張っていこうと改めて思いました。

Q イメージアップをするために一番力を入れた行事を教えてください。

A それは五高祭です。特に開閉祭式では、会場の一体感を出すための工夫をすることが大変でした。閉祭式では全校生徒で大合唱したことで、今までの努力が報われたと感じることができました。アンケートでも賛否両論ありましたが、多くの好意的な反応をいただき有り難く思いました。

Q 五高祭について、それ以外に何か変化はありましたか。

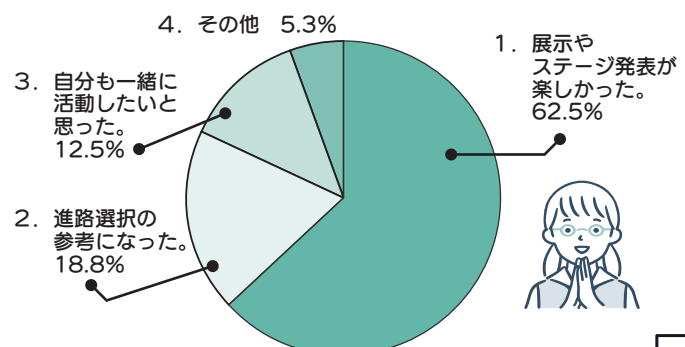
A 在校生のセンスあふれる企画内容と当日の頑張りによって、生徒だけではなく地域の皆さんも楽しめる五高祭になりました。またInstagramで五高祭の様子を発信したことで、来場者数が1,000人を超えました。来てくださった皆さん、本当にありがとうございました。

来校した中学生の反応(一部抜粋)

- 勉強っていうイメージがあったけど、勉強以外にも力を入れていて学校生活が楽しそうだなと感じた。
- 勉強ばかりのイメージだったけど、行事や部活がすごく楽しそうで、今までより興味がわきました。
- 最初は「堅苦しいような高校」というイメージがあったけど、紹介動画のBGMや説明で「楽しそうな高校」というイメージに変わりました。
- 真面目でかたくななイメージから、楽しそうなイメージに変わろう。(特に五高祭)

五高祭の感想

五高祭へ来校した中学3年生へのアンケート





令和5年度 前期PTA・PTA後援会会務報告

月	日	内 容	場 所
4月	7日(金)	1学年PTA・後援会入会式	本 校
	11日(火)	第1回三役会・第1回役員会	本 校
	16日(日)	五高第1回健全育成委員会	本 校
		五高第1回研修委員会	
		五高第1回広報委員会 PTA・PTA 後援会総会	
5月	12日(金)	高P連西北地区協議会総会	ブラザリウム五所川原
	26日(金)	青森県高P連総会	アップルバレス青森
6月	9日(金)	青森県高等学校PTA連合会 五所川原大会	オルテンシア
	12日(月)	第1回保護者による挨拶運動	本 校 玄 関 前
	13日(火)	高P連西北地区研修委員会 第1回理事会	本 校
	15日(木)	高P連西北地区健全育成委員会 第1回理事会	五 所 川 原 農 林 高 校
	17日(土)	3 学年PTA①	本 校
	24日(土)	2 学年PTA①	本 校
	27日(火)	県高P連広報紙づくり研修会	県総合社会教育センター
	30日(金)	高P連第1回健全・進路・研修 合同委員会	アップルバレス青森
7月	1日(土)	1 学年PTA①	本 校
	6日(木)～ 7日(金)	東北高P連福島大会	福島県飯坂町
	12日(水)	高P連西北地区協議会 第1回三役会・役員会	木 造 高 校
	15日(土)	五高第2回広報委員会	本 校
		五高第2回研修委員会	
8月	4日(金)	五高立佞武多3学年 (PTA・健全育成委員)	市内運行コース
	6日(日)	五高立佞武多1学年 (PTA・健全育成委員)	市内運行コース
	7日(月)	五高立佞武多2学年 (PTA・健全育成委員)	市内運行コース
	8日(火)	五高立佞武多同窓会	市内運行コース
	24日(木)～ 25日(金)	全国高P連宮城大会	宮城県仙台市
9月	8日(金)	3 学年PTA②	本 校
	22日(金)	第1回高P連単位PTA会長会議	サン・ロイヤル+和田
	26日(火)	県高P連健全育成・研修委員会 合同研修会	県総合社会教育センター
10月	5日(木)	高P連西北地区協議会研修会	ブラザリウム五所川原
		五高研修委員会校内研修会	
	13日(金)	第2回保護者による挨拶運動	本 校 玄 関 前
		1 学年PTA②	
	26日(木)	五高研修委員会校外研修会	秋田県小坂町
	27日(金)	2 学年PTA②	本 校

PTA・PTA後援会今後の予定

月	内 容
11月	県高P連進路指導研修会
	PTA第2回三役会
	PTA広報紙『はるにれ』第96号発行
12月	五高第4回広報委員会
	高P連西北地区協議会第2回役員会
1 月	県高P連健全・研修・広報委員会③
2 月	高P連西北地区研修委員会第2回理事会
	五高PTA役員会研修・健全育成・広報委員会 合同反省会
	高P連西北地区協議会健全育成委員会第2回理事会
	第2回単位PTA会長会議
3 月	PTA広報紙『はるにれ』第97号発行
	高P連西北地区協議会第3回役員会
	PTA・PTA後援会第3回三役会・第2回役員会
	PTA・PTA後援会監査

令和5年度 PTA・後援会役員

校 長	大 瀬 幸 治	
会 長	高 橋 尚 裕	
副会長	前 田 輝 美	3 学 年 部 会 長
〃	村 上 靖 徳	2 学 年 部 会 長
〃	野 崎 厳	1 学 年 部 会 長
〃	安 田 昌 孝	健 全 育 成 委 員 長
〃	奈 良 真 弓	研 修 委 員 長
〃	横 山 有 紀	広 報 委 員 長
〃	福 士 貴 博	教 頭
会 計	小 野 美香子	
〃	渋 谷 千津子	
監 事	秋 田 瞳	3 学 年 監 事
〃	大 崎 亮 子	2 学 年 監 事
〃	三 戸 靖 史	1 学 年 監 事



編集後記

長く続いたコロナ禍による制限のある生活がようやく明けて「当たり前の日常」が戻りつつある中、行われた五高祭や五高スポーツフェスティバル、立佞武多運行などの様々な行事は、生徒や先生方、保護者の皆様の笑顔と熱気に満ち溢れたものとなりました。その一コマ一コマをこの「はるにれ」96号を通して思い出して頂ければ幸いです。

「当たり前の日常」を送れることに日々感謝しながら、今後も生徒の皆さんには学校生活を有意義に過ごしてもらいたいと思うと同時に、保護者として全力で応援していきたいと思います。

今回も無事に「はるにれ」を発行することができ、発行にあたりご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

(広報委員 田村)